

## 令和6年度保育園自己評価

令和6年度 自己評価シート 実施令和7年1月17日

実施者数 34名

評価 (A、B、C、D) に回答を記入

|   |          |
|---|----------|
| <b>1. 保育・教育目標について</b>   | <b>A</b> |
| 園内研修や日々の対話を通じて、全職員が保育理念や方針を深く理解し、共通意識を持って保育にあたっています。特に、大人が何かを「させる」のではなく、子どもの「したいこと（遊び）」を尊重し、温かな雰囲気や一人ひとりの存在を大切にしている関わりが浸透しています。長年培われた方針は新しい職員にも丁寧に伝えられ、地域や保護者からの要望に対しても迅速な話し合いと対応が行われています。  |          |
| <b>2. 保育計画について</b>  | <b>B</b> |
| 目の前の子どもの実態に合わせた分かりやすい計画作成に努めており、月案の反省時にはクラスで集まって振り返りを行い、翌月の進め方について共通理解を図っています。一方で、子どもの興味に基づいた環境構成を実践しつつも、落ち着いて遊び込める環境の深化や季節感の演出には課題が残っています。B評価の分析として、遊びをさらに展開・連続させる方法や、遊びの中に意図的な学びをどう取り入れるかといった**「保育の質の向上」に向けた悩みや、発達の見直しを持った計画への自信のなさ**が挙げられています。 |          |
| <b>3. 保育の内容1.2</b>  | <b>A</b> |
| 全職員が担当クラスに関わらず子どもの様子を把握し、情報を共有しながら、一人ひとりに合わせた環境作りや対応を行っています。異年齢保育を自然な形で実施し、基本的な生活習慣が身につくよう粘り強く見守るとともに、落ち着けるスペースの確保など環境の見直しも進められています。保護者とも密に情報を交換し、一人ひとりのペースを尊重しながら、改善に向けて前向きに取り組む姿勢が共有されています。   |          |
| <b>4. 健康管理</b>  | <b>A</b> |
| 子どもの顔つきや動きの変化に気づいた職員が即座に声を上げ、職員間で配慮事項を共有できる体制が整っています。午睡チェックの見直しにより安全意識がさらに高まっており、体調の変化やケガの際も、一人で判断せず職員同士で連携して適切な対応をとり、保護者への連絡も円滑に行われています。   |          |
| <b>5. 給食、食育</b>   | <b>A</b> |
| 食物アレルギー対応や衛生管理、安全な動線の確保など、給食提供に関する安全意識が非常に高く保たれています。食育の面では、野菜の収穫や調理体験を実施し、異年齢で食事をすることで「食べる意欲」や「お世話をされる喜び」を育てています。また、咀嚼や嚥下の状況に合わせて個別に無理なく進められるよう、細かな配慮と情報共有が徹底されています。  |          |
| <b>6. 保護者支援</b>   | <b>B</b> |
| 連絡帳や口頭でのコミュニケーションを密に行い、保護者の思いに寄り添った信頼関係の構築に努めています。特に、ドキュメンテーションの毎日配信を通じて、子どもの面白い姿や学びの様子をきめ細かく伝えていることが、保護者の安心感につながっています。今後も、保護者の声を大切に受け止め、接しやすい雰囲気づくりを継続していく方針です。  |          |
| <b>7. 苦情解決</b>  | <b>A</b> |
| 苦情やクレームに対しては、クラス、リーダー、園長へと速やかに報告し、一人で抱え込まず組織的に対応する体制が確立されています。保護者の話を謙虚に受け止め、当時の状況を振り返りながら解決に向けて丁寧に対応しており、怪我を伝えた際の保護者の表情まで気に掛けるなど、細やかな配慮がなされています。  |          |
| <b>8. 守秘義務</b>  | <b>A</b> |
| 全職員が守秘義務の重要性を「当たり前」として深く理解し、情報を外部に漏らさない意識を徹底しています。具体的な行動としても、仕事を園外に持ち出さず園内で完結させるなど、個人のプライバシーを守るための規範が守られています。   |          |
| <b>9. 人権尊重</b>  | <b>A</b> |
| 各家庭の状況に応じた柔軟な配慮を行い、性別によって遊びや色を決めつけないなど、一人の人間として子どもや保護者を尊重する関わりを意識しています。また、不適切保育に関するニュースなどを通じて自身の行動を省みる機会を持ち、職員同士が協力し合って関わることで、心理的な安心感を持って保育にあたっています。  |          |
| <b>10. 地域社会との連携</b>   | <b>B</b> |
| 近隣店舗での買い物体験やグループホームへの訪問、鬼剣舞保存会による米作り指導など、地域との交流を積極的に行っています。しかし、クマの出没により園外活動が制限されたことや、立地上の関わりにくさが課題として挙げられています。また、小学校との接続（架け橋プログラム等）において、園での学びをより具体的に伝え、小学校側が求めていることを知る努力がさらに必要であると分析されています。   |          |
| <b>11. 園内外の研修</b>   | <b>A</b> |
| 多くの職員が率先して様々な研修やワークショップに参加し、新しい知識や技術の習得に意欲的に取り組んでいます。研修後は、報告書の作成や情報共有を通じて、得た内容を実際の保育の改善や見直しに活用しており、組織全体の質の向上に寄与しています。   |          |
| <b>12. 安全管理</b>   | <b>A</b> |
| 子どもの動きを予測した玩具の出し入れや、教材を出す前のリスク判断、消毒の徹底など、事故防止のための具体的な取り組みが日常化しています。園内研修を通じて職員の安全意識が高まっており、緊急時の対応についても情報が共有されているため、安全に過ごせる環境が維持されています。   |          |
| <b>13. 子育て支援の推進</b>   | <b>B</b> |
| 病後児保育や園庭開放を実施しており、利用者への積極的な挨拶や相談対応を通じて地域支援を行っています。課題としては、園が実施している子育て支援事業の内容を全職員がより深く理解し、組織全体で意識的に情報を共有していくことが必要であるとされています。  |          |